



2024年8月19日

国際ロータリー第2790地区

24-25 クラブ会長、幹事、国際奉仕委員長様

24-25 奉仕統括委員会委員長 鈴木 荘一

国際奉仕委員会委員長 高田 新也

「TSUNAGU2790」プロジェクト賛助クラブ募集

拝啓 日頃より地区奉仕プロジェクト活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、「TSUNAGU2790」プロジェクトについてですが、「一つのクラブでは資金的に困難な時、もう少し大きな事業をしたいとき、でも、ロータリー財団のグローバルグラントを使う程の事業ではないとき」事業の提唱クラブとなりプレゼンテーションを行い、地区内のクラブに賛助を募り、「賛助クラブがお金を出し合って事業を支援する」というプログラムです。簡単に言うと国際奉仕のクラウドファンディングです。多くのクラブが国際奉仕に参加しやすくなると思い、このシステムを「TSUNAGU2790」とネーミングし、今年からの実現に動いています。

今回は、6月に募集しました提唱クラブによる「提唱クラブプレゼンテーション」を8月24日（土）の「奉仕プロジェクトセミナー」第2部にて行いますので、ご覧いただき、賛助クラブへのご理解とご参加を検討いただければと思います。

賛助クラブから国際奉仕の第一歩を踏み出し、そこから自分のクラブで企画し、提唱クラブ側になって行く、さらには財団地区補助金、グローバル補助金を使っての国際奉仕にまで繋がればと思っています。第2790地区内の多くのクラブのご参加をお待ちしております。

「提唱クラブプレゼンテーション」資料と「賛助エントリーシート」を添付しますので、賛助クラブは締切日までに下記送信先へシートを返信いただき、賛助金のお振込をお願い致します。来年1月の国際奉仕セミナーか、次年度の奉仕プロジェクトセミナーにて事業報告いたします。

敬具

※締切提出日：2024年10月20日まで

返信先：国際奉仕委員会 高田 新也（柏RC） Mail : shinya.t@abelia.ocn.ne.jp

問い合わせ TEL:090-4389-7680 FAX:04-7144-34482

振込先： 千葉銀行 柏支店（普）4391998 RID2790 国際奉仕委員会

賛助エントリー用紙

「2790TSUNAGU 賛助クラブ用 記入用紙」

申込日 2024 年 月 日

ク ラ ブ 名	
担 当 者 名	
携 帯 電 話	
E-mail	

↓ チェックしてください

提唱クラブ名	事 業 名	対象地域	賛助	賛助金額
千葉幕張 ロータリークラブ	フィリピン孤児院への 文具支援	フィリピン	<input type="checkbox"/>	,000 円
松戸中央 ロータリークラブ	ベトナム南米山学友会との 共同事業	ベトナム	<input type="checkbox"/>	,000 円
鴨川 ロータリークラブ	ラオスの病院への医療機器	ラオス	<input type="checkbox"/>	,000 円
			<input type="checkbox"/>	円
賛助金額 合計 (送金額)				,000 円

※締切提出日:2024年 10 月 20 日でお願い致します。

※返信方法:「Word」で用紙へ記入してメールか FAX でお送りください。

返信先: 24-25 国際奉仕委員会 担当 委員長 高田 新也

Mail: shinya.t@abelia.ocn.ne.jp FAX 04-7144-3448

お問い合わせ TEL:090-4389-7680

振込先: 千葉銀行 柏支店 (普) 4391998 RID2790 国際奉仕委員会

※振込み手数料はご負担ください

提唱クラブ申込用紙

「2790TSUNAGU 提唱クラブ用 記入用紙」

申込日 2024 年 月 日

事業名	フィリピン孤児院への文具等支援	
提唱クラブ詳細	クラブ名称	千葉幕張ロータリークラブ
	会長・幹事名	永野知英会長 富山保昭幹事
	担当者名	萬燈知永子
	担当者携帯☎	080-1231-9067
	担当者mail	c-mandou@c-net46.com
対象地域	フィリピン	
相手団体	サンマルティン孤児院 女児寮	
事業内容	約 50 名の孤児のいる当院は、彼らが成人した時に自立できるよう学校へ通わせている。院では最低限、彼らが健康的に成長できるよう食事の手配、運動ができるような施設の充実を図っているが、自立のためには識字率向上は必須な事項である。院では資金不足のため、孤児が文具や私物を所持して通学する為に必要なバックが足りていない。そこで、全ての子供達に通学カバン（リュックサック）を支援する。子供達が統一されたカバンを所持するという事は集団内で一切上下の区別なく連帯性を高める効果も見込め、人格形成及び健全育成の観点でも大きな意味を持つものと考えます。カバンは長く使える丈夫な物とし、そこにはロータリークラブのロゴと孤児院のロゴ、そして子供達個々のイニシャルを刺繍入れしたものとする。	
概略予算	300,000 円	
その他付記事項	カバン：1,500 ペソ×50 個＝75,000 ペソ 刺繍：360 ペソ×50＝18,000 ペソ 合計：93,000 ペソ（2024/7/1 レート日本円 約 257,610 円） ※ 予算内の範囲で生理用品や生活用品等の追加支援を検討。 ※ 追って商品画像・追加資料及び見積書等を提示予定。	

※締切提出日：2024 年 7 月 31 日でお願い致します。

※返信方法：「Word」で用紙へ記入してメールか FAX でお送りください。

返信先：24-25 国際奉仕委員会 担当 高田

Mail : shinya.t@abelia.ocn.ne.jp FAX 04-7144-3448

お問い合わせ TEL:090-4389-7680

Heart to Heart

～幕張からフィリピンへ愛を届けよう～



サンマルティン孤児院について

孤児院: Bahay ni Yamay ni San Martin de Porres (サンマルティン孤児院)
 設立: 2003年12月

沿革: 始まりは2003年6月、カトリック教会のBahay 神父により希望が尽きないストリートチルドレンを一人でも多く救いたいとの志からマニラ近郊のストリートチルドレンにスプーンキッチンという小さな食料配布施設から始まり、開始早々より毎月約50名もの子供たちが食料配布を受ける事ができ、彼らはそこで初めて居ることを学び、心の拠り所として施設周辺で生活する子供が増えたことから2002年11月に慈善的ではあるが保護し滞在ができる場所を追加設置したことにより、夜に独る子供たちが安心して眠ることができる施設となりました。



そんな子供たちを目的の自営にしたり一部の教会の方、そして心ある賛成者男女からの多額の寄付により2003年12月フィリピン国バランサイ州に孤児院の拠点となる家が建設され18名の男女の受け入れ支援が完了しました。避難した子供たちは後を絶たず2004年にバス会社からなくなったバス2台が提供され、男女が別々で暮らせる事ができる環境が整いました。



提供されたバス2台は後に「始まりのバス」と呼ばれ、今でもシンボルとして存在しております。その後日本大使館を中心とする各々の寄付に支えられ、現在では孤児院のヘクタームの土地に子供達が生産する4つの家の他にゲストハウス、教会の聖堂、学校、会議室、食堂が設置されております。最近では2020年にもあるボランティアのクラウドファンディング成功により男子寮にクライングホールが新設されました。



生徒数: 少年79名、少女35名、合計114名 教員: 7名
 運営状況: 現在では国内外の個人や団体からの寄付、ボランティアで運営が維持されております。

サンマルティン孤児院について



孤児院のシンボル「始まりのバス」



支援① バレーボールコートの寄贈



2022年7月バレーボールコート完成



寄贈後 子供達との集合写真



バレーボールコートの寄贈を記す



支援② 運動靴の寄贈



一人一人に靴を手渡していく



寄贈後の撮影



支援③ 生理用品の寄贈



訪れる度に子供達との絆の深まりを感じる



会長より寄贈品の授与



「2790 TSUNAGU」への挑戦

◆ 孤児院の子供達へカバンの寄贈

【寄贈の趣旨】

現状、孤児院では備品として子供達のカバンが無く、子供達が文具やノートを持ち歩く際は各々で所持している物を利用している。手提げバックを所有している子もいれば、スーパー等のビニールバックを使っている子もいる。中には透明なゴミ袋に入れて文房具を持つ子等もあり、一目瞭然と優劣性を感じる。そんな子供達に公平に統一して所持できるカバンを寄贈したい。



カバンの寄贈による効果

【子供達の健全な育成】

孤児院の子供達の多くは劣悪な環境が生み出したストリートチルドレンです。物心もつかない幼少に置き去りにされた子、虐待から逃避した子、私達が想像もできない環境です。子供達は本当に純粋であり、置かれた環境の影響は計り知れず、天使の様な笑顔を見せてくれる事もあれば、人を憎むこともあります。

私達の視察では、瞳を輝かせて最高の笑顔を見せてくれる。そんな子供達に少しでも整った環境を提供する意味で、皆が公平に所持できるカバンを寄贈できたならば、所持品による優劣感を軽減させ、統一したカバンでより子供達同士の連帯性を向上させ、平等の精神を育てるといった効果を得られ子供達の健全育成の観点でも大きな意味のある事であると考えます。

【効果】

- ・子供達間での優劣感情を軽減
- ・共通のカバンにより潜在的連帯感を向上させる
- ・平等の精神を育てる



寄贈品について

【カバン】

- ・7～18歳の女兒が手軽に持ち歩くことができるサイズ
- ・容易に背負えるリュックサック形状のカバン
- ・収納にすぐれたもの
- ・多少の雨にも負けない防水性を兼ね備えたもの
- ・耐久年数の高い丈夫な生地のもの



靴イメージ

【刺繍】

- ・カバンにはロータリークラブと孤児院を象徴する刺繍を施す
- ・子供達1人1人の名を刺繍
- ・ロータリークラブから子供達へのメッセージを記す刺繍



刺繍イメージ



提唱クラブ申込用紙

「2790TSUNAGU 提唱クラブ用 記入用紙」

申込日 2024 年 7 月 20 日

事業名	ベトナム南米山学友会との共同事業（もっと日本を好きになって欲しい）	
提唱クラブ詳細	クラブ名称	松戸中央ロータリークラブ
	会長・幹事名	高木直樹会長・吉村 博幹事
	担当者名	福澤昭弘（国際奉仕委員長）
	担当者携帯	090-1045-9731
	担当者 mail	fukuzawa@kk.ij4u.or.jp
対象地域	ベトナム	
相手団体	ベトナム南米山学友会（公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の公認団体）	
事業内容	<p>松戸中央ロータリークラブとベトナム南米山学友会（当時は前身組織である米山奨学生南部ベトナム学友クラブ）とは、2016 年から継続的に共同事業を行ってきた。</p> <p>支援対象は、ベトナム南米山学友会が支援する孤児院、視覚障害ホーム、中学、高校である。</p> <p>松戸中央ロータリークラブは、ベトナム南米山学友会が運営する、対象の子供達に対して奨学金制度に支援の重きを置いてきた。</p> <p>しかし、アフターコロナで国際奉仕事業を再開するにあたり、ベトナム南米山学友会と協議を重ね、支援先への物品援助も行う事とした。</p> <p>そこで、支援先に学習参考書、筆記用具等を援助することで、更に、ベトナムの子供達に日本語教育をとおして、ベトナムの子供達に『もっと日本を好きになって』もらい、文化交流を通して、将来にわたり日本とベトナムの友好関係を深めたい。</p>	
概略予算	約 94,500 円（2024/07/10 現在のレート）	
その他付記事項	① 学習参考書、教材、筆記用具等 @5,000,000 ドン×3 施設分 = 15,000,000,000 ドン * ドン/円レート 1 ドン=0.0063 円（2024/07/10 現在）	

※締切提出日:2024 年 7 月 31 日でお願い致します。

※返信方法:「Word」で用紙へ記入してメールか FAX でお送りください。

返信先: 24-25 国際奉仕委員会 担当 高田

Mail: shinya.t@abelia.ocn.ne.jp FAX 04-7144-3448

お問い合わせ TEL:090-4389-7680



ベトナムの

恵まれない子供たちに
学習教材を届けたい!!

ベトナム南米山学友会との共同事業
(2025年4月実施予定)

TSUNAGU 2790

松戸中央ロータリークラブ 2024-25年度 会長 高木直樹

1

松戸中央ロータリークラブとは

創立43年目 (1982年～) の

国際奉仕事業
社会奉仕事業

を得意とするクラブです



2

松戸中央ロータリークラブの国際奉仕事業

- 2009年 フィリピン・セブ島支援
- 2010年 カンボジア支援
- 2011年 イギリス・ノーリッジRC訪問
- 2012年 **ベトナム・ホーチミン支援①**
- 2013年 インドネシア・バリ島支援
- 2014年 インドネシア・バリ島支援
- 2015年 **ベトナム・ホーチミン支援②**
- 2016年 **ベトナム・ホーチミン支援③**
- 2017年 **ベトナム・ホーチミン支援④**
- 2019年 インドネシア・バリ島支援
- 2024年 **ベトナム・ホーチミン支援⑤**



3

ベトナム南米山学友会とは



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース

Vol. 278
2023年5月12日
発行
ハイライトよねやま

1. ベトナム南米山学友会が誕生！海外 10 番目

ベトナム南部、ホーチミン市を中心とする「ベトナム南米山学友会」が5月9日の常務理事会にて正式に



承認され、海外 10 番目となる米山学友会が誕生しました。創立会員は 28 人、初代会長はホーライフーンさん (1973-75/桐生西RC)、副会長をタイ ヴァン ナムさん (2007-11/千里RC) が務め、その他 1 人の会計、2 人の監事、7 人の理事、計 12 人の役員で運営されます。

ホーライフーン会長は「5月9日はわれわれにとって記念すべき日となりました。これから皆で一層団結し、世の中、人々のため、頑張ってやっていきたい」と、意気込みを語りました。ホーチミンでは 2014 年から米山学友がグループを形成し、児童・障害者・高齢者のための福祉施設への慰問などさまざまな奉仕活動の続きがあり、今後さらなる活躍が期待される。

4

ベトナム南米山学友会の皆さん



5

支援先の子供たち



6



7



8



9



10

今回お願いしたい支援金

94,500円 (概算)

*2024.7.10現在のレート

対象：孤児院・学校等の施設
内訳：学習参考書、日本語教材

11

提唱クラブ申込用紙

「2790TSUNAGU 提唱クラブ用 記入用紙」

申込日 2024 年 7 月 25

事業名	カンボジア、シェムリアップ州でのVision Van活動に向けて	
提唱クラブ詳細	クラブ名称	鴨川ロータリークラブ
	会長・幹事名	会長 亀田秀次 幹事 神定浩明
	担当者名	亀田美穂
	担当者携帯	090-1452-6201
	担当者mail	kameda.miho3010@gmail.com
対象地域	Siem Reap 州 Cambodia	
相手団体	Ankor Japan Friendship International Hospital	
事業内容	<p>現在のカンボジアは都市部の経済発展は著しいが、農村部の貧困はまだまだ顕著である。医療についても同様で、もともと医師の数が少ないことに加え農村部は病院も少なく人々は治療を受ける事を積極的にはしない。交通手段がトゥクトゥク、バイク、自転車が多い中で、視力低下によって起こりうる事故等の危険の認知度が低く、目がよく見えない程度では病院を受診するという認識が少ない。一方では、視力低下含め白内障疑いなどの眼科受診対象者は増加している。医師が少ない中、カンボジア内の眼科医師の数は更に少ない。そこで、相手団体である Ankor Japan Friendship International Hospital では、眼科医療機器の研修を受けた医療スタッフが Van(車)で遠方の村々をまわり、視力検査や、細隙灯顕微鏡検査を行い直接の受診が必要な人を病院に送るなどのボランティア活動を行う予定。医師は病院での診察がある為基本的には同行しないが、病院内で携帯医療デバイスから送られてくるデータを確認し、遠隔診断を行う。この活動によって眼科受診、治療が遅れる事での Preventable Blindness (防ぐことのできる失明)を減らすことを目標としている。今回私達が手掛けるプロジェクトは、現地病院スタッフボランティアグループが車で活動するために必要な、眼科の携帯医療デバイスの購入。その医療デバイスは、スマートホンに装着し現地で病院と同じ検査ができる製品で、スマートホンを通し病院にいる医師が遠隔診療できるものである。</p> <p>以上に加え、現在各ご自宅でご不要になったメガネの寄付を募り現地に送る。</p>	
概略予算	約 30 万円	
その他付記事項		

※締切提出日:2024 年 7 月 31 日でお願い致します。

※返信方法:「Word」で用紙へ記入してメールか FAX でお送りください。

返信先: 24-25 国際奉仕委員会 担当 高田

Mail: shinya.t@abelia.ocn.ne.jp FAX 04-7144-3448

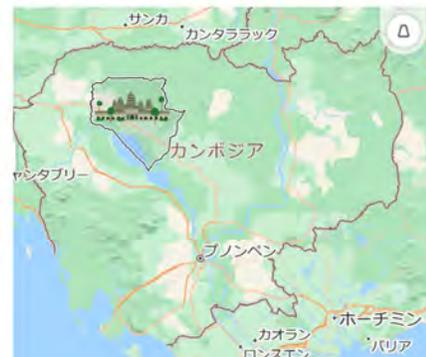
お問い合わせTEL:090-4389-7680

カンボジア・シェムリアップ州における 眼科遠隔検査機器支援

鴨川ロータリークラブ
Miho Kameda

シェムリアップ

- ▶カンボジア国内で首都プノンペンに次ぐ第二の都市
- ▶面積は約10000km² (新潟県くらい)
人口は約100万人 (仙台市くらい)
- ▶アンコールワットを擁する観光都市
- ▶熱帯気候で年間の平均最高気温が33°C
- ▶平均的な月収は看護師で\$ 250、一般的には\$ 100-150程度



シェムリアップでの眼科診療の問題点

- ①眼科医不足
そもそもカンボジアには眼科医が国内に80人と非常に少ないが、ほとんどが首都プノンペンにいます。
人口100万人のシェムリアップ州ですら3人のみ⇒人口対比で日本の1/100
(日本では1万人に対して1人の割合で眼科医が存在)
- ②眼科医偏在
新洲県と同じの広さのシェムリアップの中で、6km圏内の中心街に3人の眼科医が固まっている。
州のほとんどの地域では眼科受診が不可能
- ③経済の未発達
住民の収入が非常に低いため
症状が非常に進行してほとんど失明近くなりたいため眼科を受診しようとしていない

Angkor Japan Friendship International Hospital

- ▶州都のシェムリアップ市に2017年開院
- ▶診療科 一般内科・外科・眼科



様々なボランティア活動

- ▶Angkor Japan Friendship International Hospital Volunteer Team
- ▶使命：人の幸せにつながる活動をする



-小学校での手洗い指導 -ごみ捨て教育 -大学・ホテル等でAED使用法/心肺蘇生の講習

眼科のボランティア活動

- ▶学校や孤児院での視力検診・眼科検診
- 内科検診も含め、カンボジアでは学校での定期検診は一切ないため、学生に対して眼についての啓蒙講義を行ったうえで実際に視力測定・眼科検診を行っている



眼科のボランティア活動

▶高齢者に対する視力検査・眼科検診

高齢者になってもバイクを運転する方も多く、治療可能な疾患による視機能低下を早期に発見・治療することを目的として、主に田舎の村をまわって啓蒙活動・眼科検診を行っている



今後の活動に向けて

1人でも多くの視力を守るために院外活動の範囲を広げたい！！

Limitation

①シェムリアップは広く（新潟県と同じくらいの面積）、眼科医一人で診察して回るには限界がある。。。

②眼科で使用している細隙灯顕微鏡は移動できないので、活動中の診断の精密性に限界がある

→解決策：スマートフォンカメラを利用した眼科検査



モバイルスリットランプ



①撮影した画像で眼科医の遠隔診療が可能(国外でもok)

②眼科外来で眼科で行う細隙灯顕微鏡検査と同様に精密な診察

⇒患者さんは村にいながら眼科医の診察が受けられるように！



シェムリアップの光を守る

▶本活動の最大の目標

眼科受診・治療が遅れることでの
preventable blindness(防ぐことのできる失明)を減らす

賛同していただけたら、その友好がシェムリアップにとってこの上ない光明になると思っています。

お時間を頂き、ありがとうございました！

